

## ツマジロクサヨトウの発生について

1. 病害虫名：ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E. Smith)
2. 発生作物：スイートコーン
3. 発生の経過  
秋田県内のスイートコーンほ場において、令和2年7月10日、本種と疑われる幼虫が捕獲された（写真1）。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、7月14日、本県では未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。
4. 形態等の特徴
  - (1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅に淡色斑と白斑を持つ（写真2）。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様（写真3）および尾部の斑点が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
  - (2) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。本種の分布地域は、北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど）である。
  - (3) 幼虫が寄主の葉、茎、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。
  - (4) 食害部付近に多数の糞が散在する。
5. 寄主範囲  
アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ）、マメ科（ダイズ等）など80種類以上の作物を加害する。  
但し、これまでのところ、国内で発生が確認された農作物はイネ科作物（飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ等）である。
6. 防除対策  
多発すると、被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。  
県は、植物防疫法第29条第1項に基づく措置（有害動植物の防除等の措置）として、国の指定した薬剤による散布指導を行う。本種に対して使用できる農薬については、以下の農林水産省ホームページを参照する。  
（農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」）  
[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)  
発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残渣をすき込む。

7. 資料



写真1 捕獲された幼虫



写真2 成虫（左：雄，右：雌 開長：約37mm）農林水産省HPより



写真3 終齢幼虫（体長：約40mm）農林水産省HPより

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP <a href="https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>	